

## 留学

## 雑感

写文・張冠華  
Zhang, Quan Hua

平成三年十月のある日、一人の青年が大阪空港に到着して、入国審査官の質問に心細く答えていた。

「目的は？」  
「勉強です」  
「在留資格認定書は？」審査官はバスポートを見ながら聞いた。

「それはですね、大使館の方から、この十月からそれは要らなくなつたと聞きましたが」青年は慌てて答えた。

「それはそうだけど、何か書くでしょう？」

「それは中国駐在の日本大使館からいたいたビザですが、詳しいことはよくわかりませんが、・・・」青年は知つておらず、不安そうに答えた。やり取りはしばらく続いた。これは私が日本にきた当日の一幕で

ある。大学からの国費留学生採用の知識を持ったのを最後に思い出して、見せたら、ようやくバスポートに「判」を押してもらい、通してもらった。何とかなつたが、これから日本での学生生活に対する不安が募る一方であつた。

外は真っ暗だつた。幸い、指導教官の嶋津先生の手配により、ガイドさんが迎えにきてくれていた。自分の名前を書いてあるプラカードを見て嬉しかつた。案内されて空港ホテルに一泊することになった。新しい生活への不安を抱きながら、一夜を過ごした。

翌日、新幹線で広島に向かつた。以来、四年余りの歳月が過ぎ、現在は本学工学研究科博士課程後期の三年生として頑張っている。

広大に来て翌月、実大柱に関する研究テーマをいただいた。嶋津研究室（耐震工学）は実験的研究を主体とする研究室で、研究活動の大半は共同作業である。テーマごとにグループに分けられ、院生及び卒論生で構成して先生の指導で研究を行う。もちろん他のグループの実験も手伝う。実験を手伝ひながら、大学院の受験勉強をしたのは、忙しかつたが、楽しい思い出となつた。

翌年四月に工学研究科博士課程前期に入学した。あれから四年過ぎ、努力の甲斐があつて研究も順調にきており、学業である。テマごとにグループに分かれ、院生及び卒論生で構成して先生の指導で研究を行う。もちろん他のグループの実験も手伝う。実験を手伝ひながら、大学院の受験勉強をしたのは、忙しかつたが、楽しい思い出となつた。

嶋津先生は優しい先生ではあるが、



嶋津研究室の皆さんと一緒に、(平成六年度卒業生を送る祝賀会にて、第二列右から三人目が筆者)

◇ 現在 勤務	◇ 一九九二年四月 博士課程後期三年次に在籍	◇ 同年五月 中華人民共和国労働部
研究科入学	本学大学院工学	能力開発大学校

## 研究生活

留学生だったら、誰しもが経験する異文化との出逢い。母国の文化背景等によつて違うが、必ずといっていいほど、異文化における生活に対しても戸惑いや違和感がある。私も初めはいろいろなことがあつたような気がする。

西条にきて間もない時のことだった。初めてバスに乗つた時、料金の支払いがよく分からなくて、降りるときに確認して財布から取り出していたら、バス運転手に「もつと早く用意してくれないと、困るね」と叱られてしまつた。ちなみに私の国ではバスはほとんど車掌付きであり、料金は車掌さんから切符を買うことになつていて。運転手の目には私が日本人のように映つた。嬉しい悲鳴である。

中国では「厳師あつて優秀な弟子がある」という言葉があるが、今、厳しい師はいるが、弟子はどうであるか疑問のあるところである。これからも、少しでも先生の教えに応じられるように努力に努力を重ねて行きたいと思う。また、先生の教えは座右の銘となり、研究者としての生涯においていつも思ひ出すであろう。

## 異文化での生活

## 文化、そして社会

「郷にいれば郷に従え」ということわざのとおり、異文化の中で生活していくにはその文化になじみ、習慣などに慣れていく必要があると思う。自分がそこでの考え方や習慣と違うとばかり嘆いていても、何も始まらない。もちろん、自國文化の良い点を堅持し、日本の方に知つてもらうべきである。

何事でもそうであるが、環境に適応できる者は生きれる。ここでは、留学生たちに、日本の社会に積極的に溶け込もうじゃないか、と一人の留学生として呼びかけたい。

西洋文化は日本に古くある「和」を強調する東洋文化と違つて、個人を強化の導入に負うところが大きいと思う。西洋文化は日本に古くある「和」を強調し、人と人における競争を一層熾烈にしていている。日本の経済が急成長している。西洋文化も例外ではない。また、物事はある種のバランスを保つている。一方を極端に強調しきると、もう一方を疎かにしかねない。偏つて

理由付けかな?、今度は話題を変えてしまふ飛んで話したいと思う。日本は「多文化」の国である。明治維新以来、積極的に西洋の文化を取り入れ、日本社会の隅々まで浸透している。日本にきて随所に感じられた。本で読んだ日本とかなり違つていて。西洋文化は日本に古くある「和」を強調する東洋文化と違つて、個人を強化の導入に負うところが大きいと思う。経済的な観点から見ると大きいに成功したと言える。しかし、物事はいろいろな側面を持つていて。時にはマイナス面もある。西洋文化も例外ではない。また、物事はある種のバランスを保つている。一方を極端に強調しきると、もう一方を疎かにしかねない。偏つて

## 結び

雑感というタイトルで、二、三感じたことを羅列してきたが、本人の非才浅学のために、読むに値するものに遠いと思うが、何か少しでも共感を覚えていたいたら幸いと思う。これからも、もつと社会に触れ、眞の日本を感じるように努力してゆきたいと思つてゐるのは、今の心境である。